

優秀賞

王子保小学校6年

藤木志遠さん

●研究テーマ

越前市森久町にコウノトリは定住できるのか？ Part3

動機

越前市にはたびたびコウノトリが飛来し、白山地区などに長期滞在をしている。しかし、森久町にはなかなか滞在してくれない。そのことについて疑問に思ったぼくは、白山地区の田んぼや森久町のピオトープなどで、50×50cmで捕かくされたコウノトリのエサとなる生物の量を比かくし、考察することにした。

内容

- ・森久町の田んぼでは、5～6月の水張りの時期にはオタマジャクシ、7～8月の中干しの時期にはカエルや昆虫類が見られたが、それ以外の田植えなどの機械が入る時期、冬には生物が少なかった。そのため、田んぼだけの環境ではコウノトリは生きられないと思う。
- ・白山地区の退ひ溝と森久町のピオトープの生物量を比べると、白山地区の退ひ溝の生物の8、10、12、5、7月の総重量96.32gは、森久町のピオトープの生物の8、10、12、5、7月の総重量29.93gの約3.2倍もあった。また、捕かく出来た生物の種類は白山地区の退ひ溝は7種類、森久町のピオトープは6種類だった。森久町のピオトープは水生こん虫、両生類が主だが、白山地区の退ひ溝は魚類やその他の生物が主だ。水生こん虫、両生類は季節による増減が激しいが、魚類やその他の生物(貝類など)は年間を通している。白山地区の生物が年間を通しているという環境がコウノトリの定住につながっているのかもしれない。
- ・各地の調査結果より、び生物とび生物を捕食する生物とそれを捕食する生物は深く関わり合っていることが分かった。

まとめや感想

コウノトリがたくさん飛来している白山地区のように、無農薬農法で魚道や退ひ溝が整備されている環境では、生物の種類も量も豊富で、コウノトリは定住しやすいと思う。森久町でもたくさんの人に協力してもらい、ピオトープの整備、水田からの退ひ溝、水田魚道作り、魚の放流、無農薬や農薬を減らす環境調和型農業をしてもらえたら、森久町にもコウノトリが定住してくれるかもしれない。ぼくも、ドジョウの放流などをするので、ぼくのピオトープで生物を増やしていきたい。

